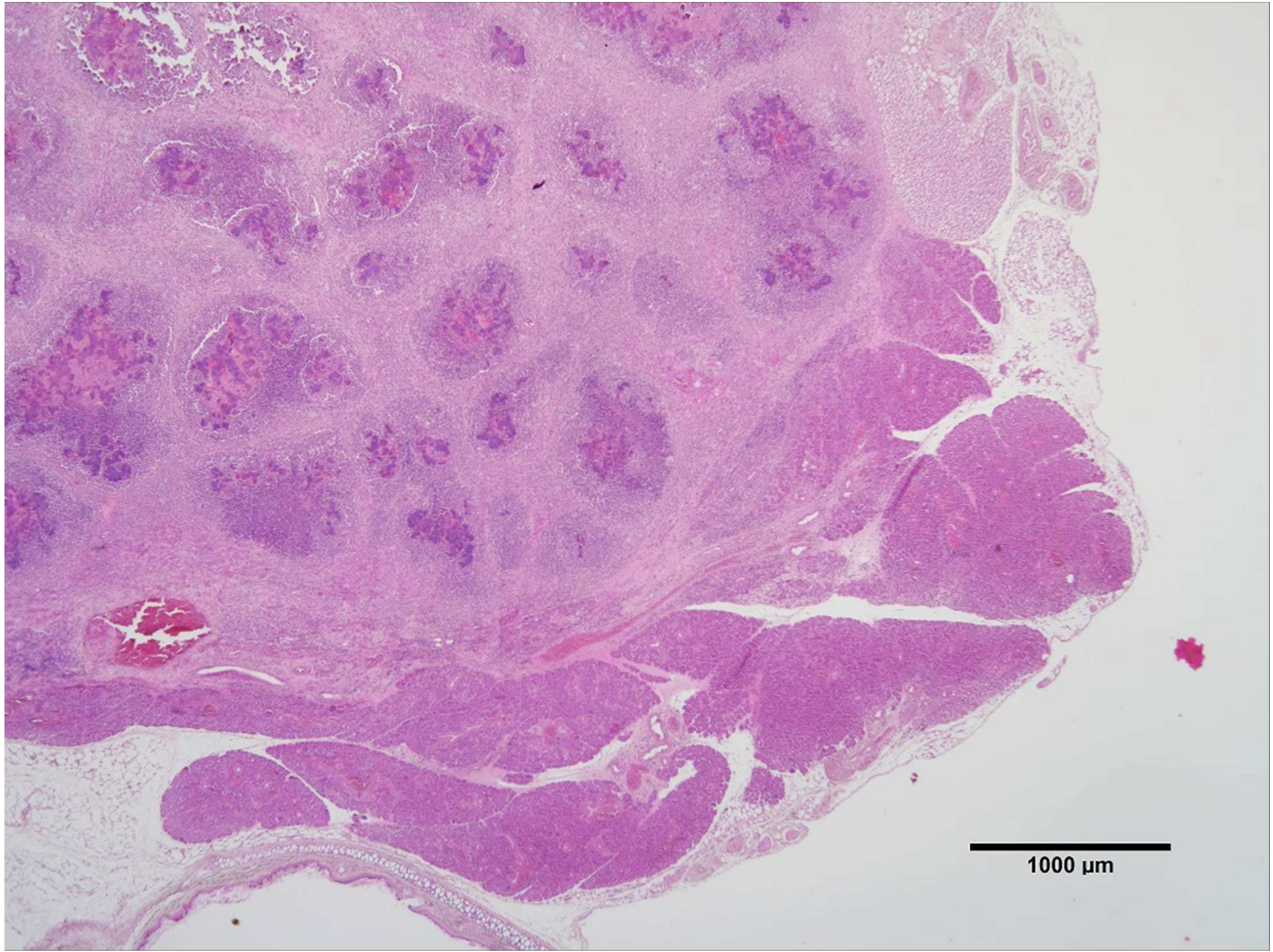


2018-5-3

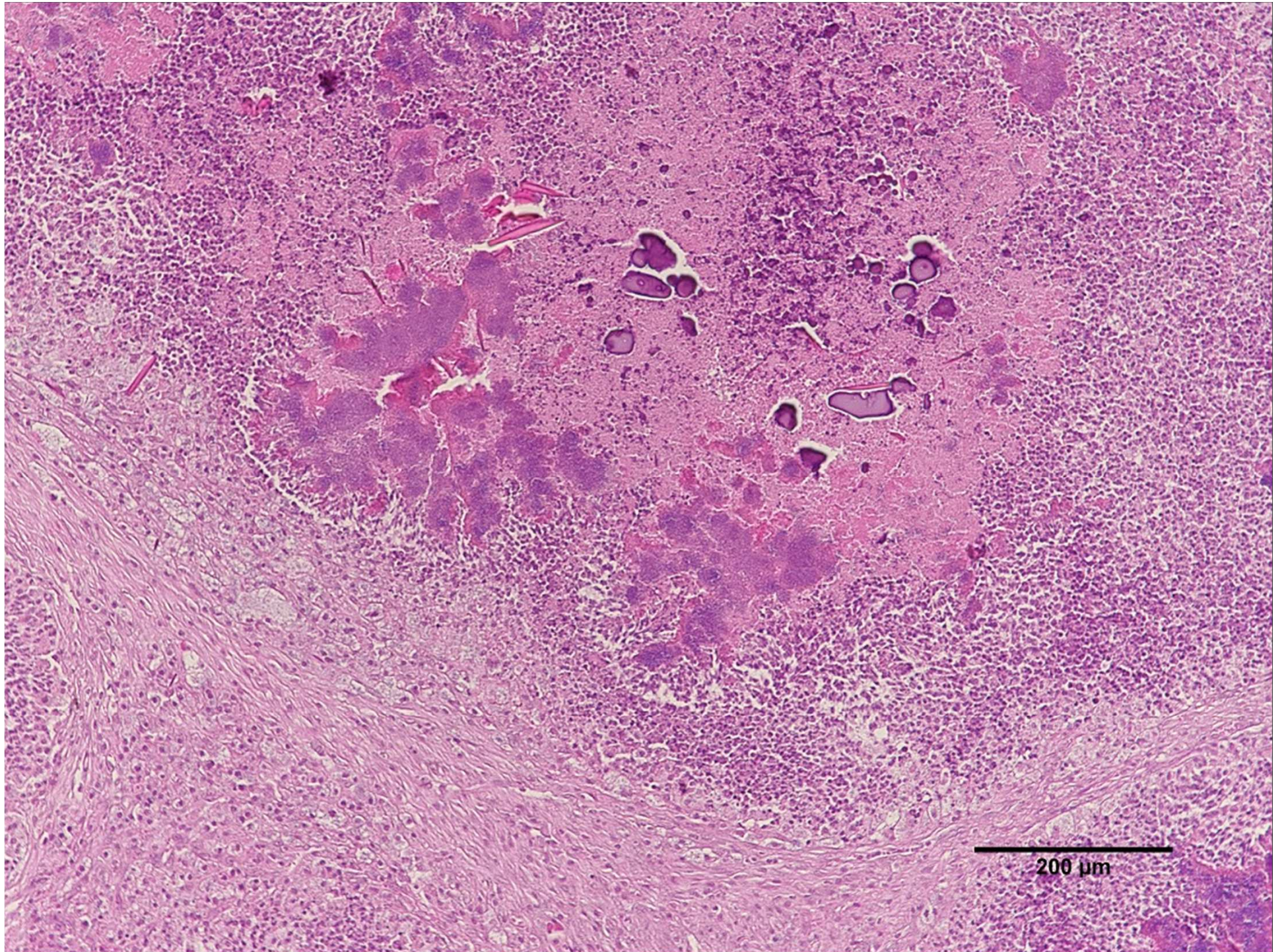
マウス 皮下組織

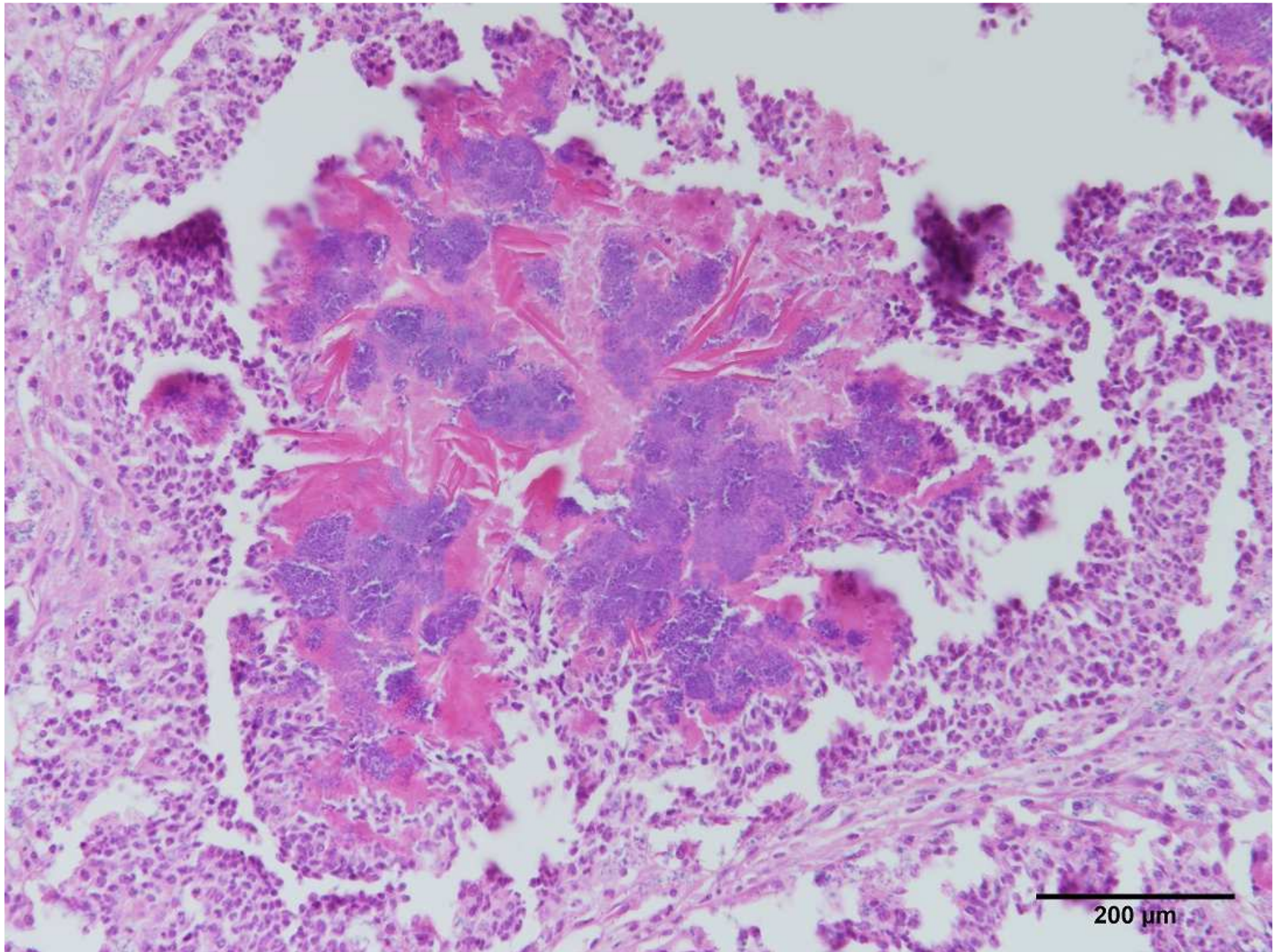
山本彩加

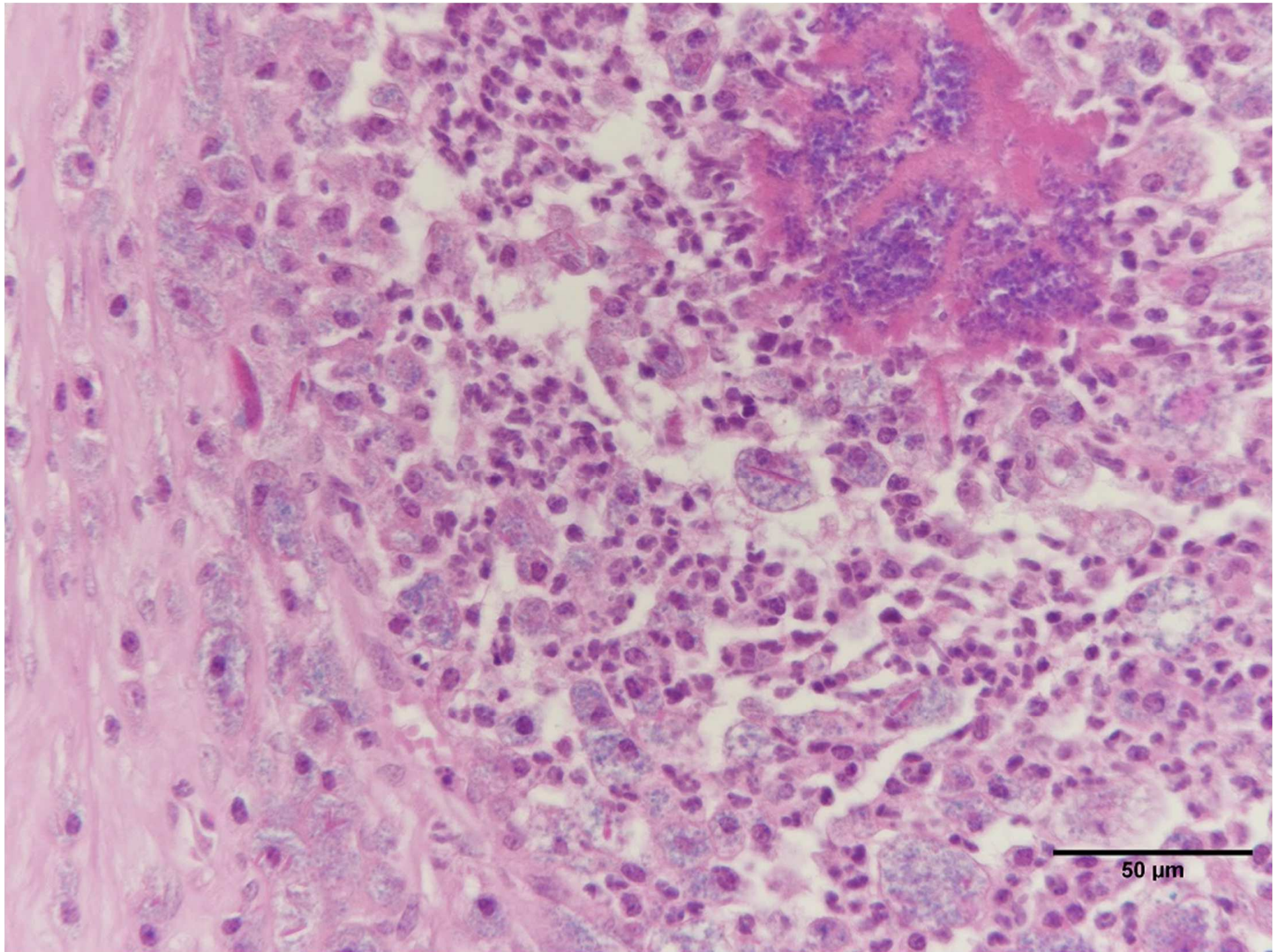
- 提出機関； Department of Pathology, Nantes-Atlantic National College of Veterinary Medicine, Food Science and Engineering
- ONIRIS, 44 307 Nantes Cedex 03, France
- 症例； B6;129 野生型マウス(hybrid C57BL/6J; 129X1/SvJ)、 7ヶ月齢、オス
- 病歴； 下顎に腫瘍が形成し急速に増大したため、7ヶ月齢で安楽死。
同居群に影響なし。
- 肉眼所見； 多結節性黄褐色腫瘍が左下顎唾液腺の大部分を置換し破壊。
腫瘍の断面は2×1cm、被包化し、白～黄褐色のチーズ状の物質で充満。
- 検査結果； 提供されていない

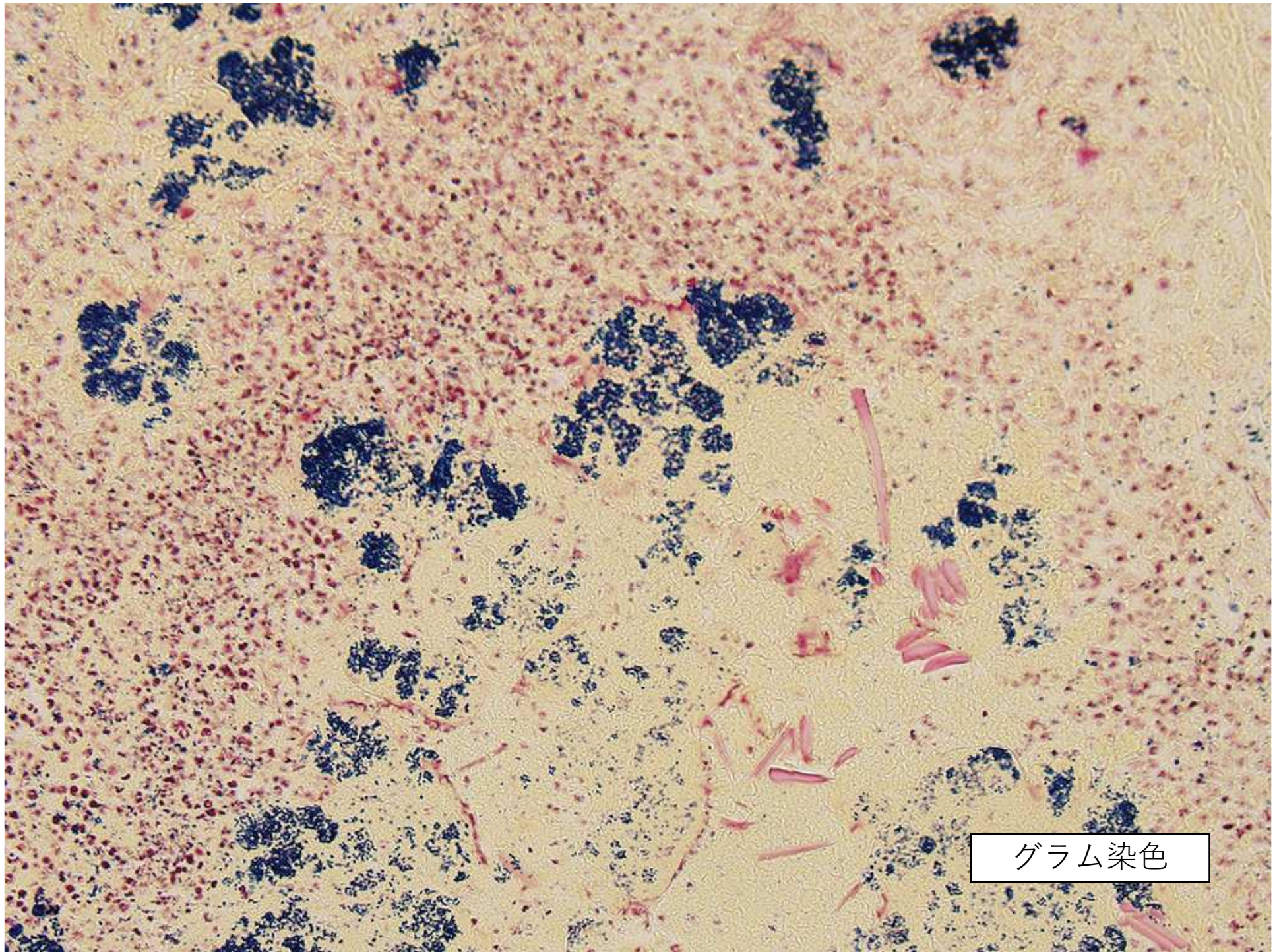


1000 μ m









グラム染色

提出者の診断

1. Splendore-Hoeppli現象に囲まれた球菌を伴う、多病巣性、融合性、慢性肉芽腫性唾液腺炎（ボトリオマイコーシス）
2. マクロファージ、巨細胞内、および細胞外領域における、針状および長方形の好酸球結晶

1. Multifocal coalescing chronic pyogranulomatous sialoadenitis with cocci circumscribed by Splendore-Hoeppli phenomenon (botryomycosis).
2. Presence of acicular and rectangular eosinophilic crystals into macrophages, giant cells, and extracellular space.

JPCの診断

皮下組織：蜂窩織炎、化膿肉芽腫性、局所的広範囲、重度、多数の球菌のコロニーを伴う。

Splendore-Hoeppli物質、軽度から中等度の肉芽腫性リンパ節炎および唾液腺炎を伴う

Subcutis: Cellulitis, pyogranulomatous, focally extensive, severe with numerous colonies of cocci, Splendore-Hoeppli material, with mild to moderate granulomatous lymphadenitis and sialoadenitis.

提出者のコメント

- ボトリオマイコーシスは、細菌性病原体に対する肉芽腫性炎症反応を特徴とする慢性化膿性感染症。一般的ではないが内臓障害に関与して皮膚に現れる。
- ヒトのボトリオマイコーシスの主な病因菌は黄色ブドウ球菌 (40%)、緑膿菌 (20%)、コアグラゼ陰性ブドウ球菌、連鎖球菌種、大腸菌、およびプロテウス菌。
- Splendore-Hoeppli物質は、抗原抗体沈殿物、免疫グロブリンG、C3補体、組織片、およびフィブリンから形成。
- ブドウ球菌は皮膚および粘膜に生息する日和見細菌であり、特定の状況下では病原性菌となる可能性がある。
- 無ガンマグロブリン血症マウスやヌードマウスなどの免疫が障害されたマウスに影響を及ぼすブドウ球菌性リンパ節炎と慢性的な皮膚感染症において古くからSplendore-Hoeppli物質が観察されている。
- 老齢B6;129 miceでは好酸性結晶(Ym1蛋白)が肺や鼻中隔などでみられやすい。

会議のコメント

- ボトリオマイコーシスはヒト、マウス、イヌ、ウシ、ブタ、類人猿、およびゾウを含む広範囲の哺乳動物、そしておそらく他の多くの種でも見られる。
- 報告されているヒトのボトリオマイコーシスの症例は75%が皮膚型、残りは内臓型。偶発的か術後の皮膚の外傷および免疫機能の変化が主要な要因と考えられる。
- 原因となる微生物のほとんどは低病原性。関与する嫌気性菌には、*Propionibacterium acnes* および*Bacteroides*種が含まれる。まれな原因菌に、*Actinobacillus lignieresii*、*Serratia marcescens*、*Pneumocystis jirovecii* および*Moraxella* 種がある。
- 低病原性細菌は一般に無傷の皮膚のバリアを越えることができないため、ほとんどの場合皮膚ボトリオマイコーシスは皮膚の外傷を必要とする。